

■米国：2018年の発電電力量、酷暑と厳冬で記録更新

2019年3月6日の米国エネルギー情報局（EIA）発表によれば、極端な天候に伴う旺盛な電力需要により、2018年の米国における発電電力量は4兆1,780億kWhに達し、ここ10年来で最も高い規模であった。これは、従来の最高記録となる不況前、2007年の4兆1,570億kWhを更新する値である。厳冬と酷暑により消費電力量が増加し、全体として家庭部門での消費が小売電力の売り上げを6%増加させたと報告している。米国では家庭の約87%がエアコンで住宅を冷房し、35%が主な暖房の熱源として電気を使用している。家庭用同様、商業用も建物での電力需要が天候の影響を受けたが、家庭用ほどではなく、2017年比で2%増に留まったとしている。